

## 校長室から 2. 自分が起点であることを意識する

### ～ SDGs キャリアビジョンワークショップ ～

自分ひとりの心がけひとつで世界を変えられるかもしれない。

日頃の小さな行動が少しずつ世界に影響を与えている。

自分が動かなければ変わらない。

5月14日、1年生の「総合的な探究の時間」に行ったSDGsキャリアビジョンワークショップを終えた生徒のコメントである。

SDGs (Sustainable Development Goals 持続可能な開発目標)とは、「貧困をなくそう」「質の高い教育をみんなに」など、2030年までに達成すべき17のゴールから成り立っている国際目標であり、2015年に国連サミットで採択された。本校では、「総合的な探究の時間」における探究課題として、SDGsを設定しており、入学前からSDGsについての学びを深めている。

この日は、体育館に1年生全員が集合し、本校卒業生の虻川氏が総合ファシリテーターとなり、2030SDGsカードゲームを行った後、キャリアビジョンを行った。

2030SDGsカードゲームでは、3人1組でゴールを示すカードが渡され、「悠々自適」「大いなる富」「環境保護の闘士」など、人生で大切にしたい価値観が示されるとともに、お金と時間を示すカードも配付される。また、「交通インフラの整備」「学校設立への寄付」「新型コロナウイルスの特効薬開発」など、様々なプロジェクト活動を示すカードもある。プロジェクトを実行するためには、それぞれお金や時間が必要となるが、うまくいくと報酬としてのお金や時間を得ることができる。一方、世界全体を示す指標として「経済」「環境」「社会」があり、プロジェクトを実現すると、そのポイントが増減する。例えば、鉄道を敷くというプロジェクトを実行すると、「経済」は「+1」だが、環境は「-1」といった具合である。8クラスが、それぞれの世界を形成する形でスタートした。前半10分では、どのクラスも「経済」指標が大きく伸びるのに伴って「環境」「社会」が落ち込んでいて、0ポイントのクラスもあった。これではSDGsの目標が達成できないと気付いた生徒たちは、後半15分、お互いに声をかけあって、お金や時間などを融通し合ったり、実行するプロジェクトを吟味し始めた結果、多くのクラスが、「経済」「環境」「社会」の3つの指標をバランスよく伸ばし、SDGsの目標を達成することができた。カードゲームを終えての生徒たちのコメントを紹介する。

- ・自分の目標ばかり気にして周りのことを考えないと、自分の目標すら達成できなくなる。
- ・最初は自分たちの目標を達成すればいいと思っていた。他の班の人たちが他人のため、環境や社会のためについて考えるのを見て刺激を受け、自分もそうなると思った。
- ・経済、環境、社会のバランスを保つのは難しく、一人だけではなく多くの人意識しなければならないと思った。
- ・1つを達成することで、犠牲になるものもあるので難しい。周りをよく見ることが大切。
- ・自分だけでなく、社会や他者のことも考えることが大事だった。
- ・全体を見ながら自分のことも解決していくことが大切だと思った。

休憩をはさんで、後半のSDGsのキャリアビジョンでは、2030年に達成したい自分のゴールと、それを達成するためのプロジェクト活動を作るという作業をとおして、世界に関わる自分を意識することになる。その際に、推奨されたのが、「バックカスティング思考」である。わくわくする未来を描き、未来から逆算して現在をとらえること。自分で限界を設けずに、妄想することだという。

生徒たちは、自分と世界との関わりを意識し、大いに妄想力を働かせてゴールを設定していた。そして次は、それを実現するためのプロジェクトを一つひとつ実行していくことだ。